同窓生シリーズ①

S61.11.15

十月十四日議員会館へ、林健太郎議員（参議院議員）をおたずね致しました。佐藤喜一先生（国語科）にもご同行いたゞき、なごやかなうちに、お話を伺うことが出来ました。

林先生は、東大西洋史学科を卒業され、東大助教授、教授を経て、昭和四十八年、東大総長になられました。そして国立協会長などの後、現在は参議院議員として、お忙しい毎日を送っていらっしゃいます。

ところで、あの懐かしい学生時代（府立六中）を思い出していたゞきました。

昔も、割にのんびりしたところのある学校だったようです。

寄り道をしたり、遅刻すれ〳〵に登校したりする生徒もかなりいて、高学年になると（四年生位）ズボンも違反すれ〳〵のラッパズボンで、そのズボンもきれいに線をつけている――、そんな生徒が、英雄的存在に見られていたようです。

先生も遅刻すれ〳〵に登校された事がおありとか――、

勉強については、あまりした記憶はないけれど、やはり最後の一年は、将来のことを考え、大学を目指してかなり勉強されたそうです。

勉強科目については、特に不得意な科目はなかったけれど、理数はあまり好きではなく、小学校の頃より地理が好きだったとか、そして実力試験で四年生の時は一番だったそうです。

でも、スポーツは苦手で、クラブには入っていなかったけれど、当時から盛んだった水泳には、毎年参加してらしたそうで、初めは泳げなかったけれど、まもなく泳げる様になり、十マイル遠泳では八マイル位まで泳いだところで、土用波で海が荒れて、中止となり、残念な思いをされたそうです。

又、学校の催し物で楽しかったのは、名士や講談師を呼んで開かれる講演会で、今のようにテレビもなかった時代の生徒にとっては、人気があり、皆、心待ちにしていたそうです。

そして修学旅行は、四泊五日で関西へ、新幹線もない昔のこと、のんびり列車で、これもまた楽しい思い出でしたと目を細めて話されました。読書については、芥川龍之介、夏目漱石など、かなり前から好んで読んでおり「出家とその弟子」は好きな本の一つでしたとのことです。最後にお好きな言葉をと伺いましたら孔子の「和して同ぜず」と答えて下さいました。大変お忙がしい中、終始にこやかにお話し下さり、本当にありがとうございました。

次号は、自治大臣の葉梨信行様の予定です。

庶務部